



【審査証明番号/有効期限】	BCJ-審査証明-243/2022年11月13日
【技術の名称】	建築物の外壁補修技術「ボンドカーボピンネット工法」
【依頼者(審査証明取得者)】	コニシ株式会社

【技術概要】

本技術は、劣化した既存外壁仕上材表面に変成シリコーン・エポキシ樹脂系プライマーを塗布した後、カーボンファイバー配合ポリマーセメントを塗布し、ビニロン製三軸ネットを貼り付けて一体化させる。その後、注入口付きステンレスアンカーピンを、側壁は4本/m²、パラペット天端は6本/m²打ち込み、アンカーピン頭部からエポキシ樹脂を注入して、拡張子とエポキシ樹脂により改修層をコンクリート躯体に固定する。さらにカーボンファイバー配合ポリマーセメントで表面を被覆することにより、既存仕上材の剥落を防止するとともに、新規仕上げ層として塗装仕上げが可能な下地を構築する。

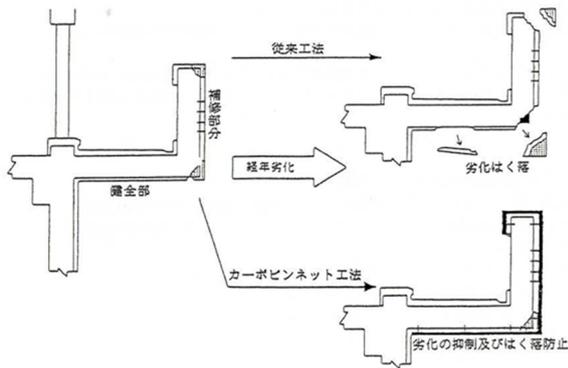


図 1.従来工法による補修とボンドカーボピンネット工法による補修

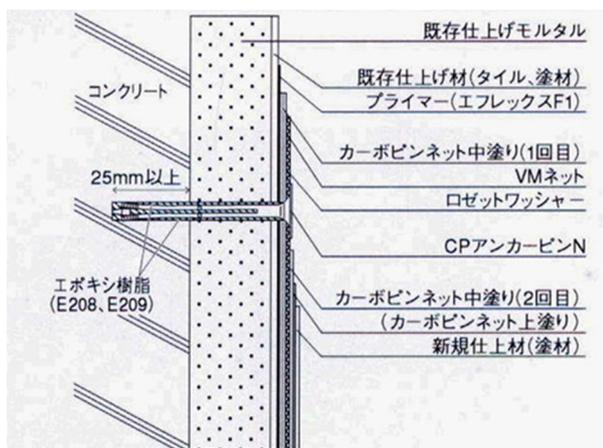


図 2.ボンドカーボピンネット工法施工断面図

【開発の趣旨】

建築物外壁の劣化した既存仕上材を一体化し、健全なコンクリート躯体に固定して既存仕上材の剥落を防止するとともに、新規仕上げ層として塗装仕上げが可能な下地を提供することを目的として開発した。

【開発目標および審査証明結果】

- (1) 劣化した既存仕上材の上に、既存仕上材と改修層の引張接着強さが0.7N/mm²以上である改修層を構築できるものと判断される。
- (2) 高さ45m以下の既存建築物の外壁に作用する風圧力や地震力(水平方向の加速度1G、鉛直方向の加速度0.5Gにより仕上材料に生じる荷重)に対して、既存仕上材及び改修層が剥落を生じないものと判断される。
- (3) 建築物の外壁に作用する温冷繰り返しやゼロスパン曲げなどによる変形に対して、既存仕上材及び改修層が剥落を生じないものと判断される。
- (4) 既存仕上材を存置したまま改修工事を行うことにより、建築廃材の発生を抑制できるものと判断される。
- (5) 適切な施工マニュアルを定めるとともに、認定講習会により技術者の教育・育成を行って、本工法の施工体制が確立されているものと判断される。

【本技術の問い合わせ先】

・コニシ株式会社/土木建設営業本部

TEL:06-6228-2961(大阪本社)

03-5259-5737(東京本社)

FAX:06-6228-2927(大阪本社)

03-5259-2144(東京本社)

・技術紹介サイト

<http://www.bond.co.jp/>